

2025 年 海外研修帰国後レポート（台湾）

教育文化学部 心理カウンセリング学科 1 年

○はじめに

2 月 19 日~2 月 23 日に実施された海外研修に参加した感想、振り返りをこのレポートに記す。この海外研修で自分自身の価値観や考え方が広がるきっかけになり、沢山のことが学びに繋がった。

私が今回海外研修に参加しようと思った理由は主に 2 つに分けられる。

第 1 の理由としては日本と違った文化や異文化に触れたいと思ったからである。現地に訪れることで実際の生活や文化に直接触れることができ、テレビや教科書などで学んだ知識よりも深いものを得られることが出来ると思った。また日本とは違った文化や生活を体感することで自分の中にある価値観を見直すきっかけになり、固定概念や偏見を払拭し柔軟な考え方を磨くことが出来るだろうと考えた。

第 2 の理由は自分自身を成長させるきっかけが欲しかったからである。私は今までどちらかと言うと積極性がなく、むしろ消極的な考え方であった。だが今までのようにチャンスを無駄にしたくないという思いから学校内のポスターを見て参加を決めた。

○1 日目

桃園空港に着いたのが大体 18 時頃だったため一度ホテルでチェックインを済ませたのち、台湾で有名な火鍋を食べに行った。台湾ならではの食べ物が沢山あり、日本とは違った味や食文化を楽しむことが出来た。夜ごはんを食べた後は皆と様々な場所をめぐり楽しい時間を過ごすことが出来た。

○2 日目

立人（リーレン）国際小学校・幼稚園に訪問させていただき、6 歳の年長組で 30 分の授業を実施した。ここでは紙コップのけん玉の作り方を教えた。幼稚園児たちはそれぞれ個性のある作品を作っており、作り終わった後はみんなでけん玉の練習をし、和やかで楽しいひとときとなった。立人国際小学校・幼稚園での授業が終わったあとは春水堂（チュンスイタン）というカフェに行き、そこからは各々自由時間に入った。その自由時間ではマッサージや観光などをして、皆それぞれの時間を過ごすこととなった。自由時間が終わり夜ごはんは鼎泰豊（ディンタイフォン）を訪れた。

○3 日目

建安（ケンアン）国民小学校・幼稚園に訪問させていただき、幼稚園では 45 分の授業、小学校では 90 分の授業を実施した。まず幼稚園では大きな紙に桜の木を作るという大勢で作る 1 つの作品となった。その作品は当日に幼稚園児たちと大きな紙に茶色の紙で幹や枝を

作り、絵の具で手形を取り事前に用意したピンク色の紙吹雪をみんなで散らすといったものだ。



このように幼稚園児たちと協力をして桜の木を完成させることが出来た。そしてみんなの手によって作られた桜の木は明るく華やかに彩られていた。

次に小学校では万華鏡作りを行った。万華鏡は日本をイメージしてデザインをしてもらった。それぞれ一人ひとり違った個性が光るような色やデザインで工夫が見られ、とても魅力的な作品を創り上げていた。



建安国民小学校・幼稚園での授業が終わった後は、故宮博物院に見学に行った。故宮博物院は世界的にも有名な博物館であり世界 4 大博物館の 1 つであるそう。ここでは主に翠玉白菜や肉形石が知られている。故宮博物院で見学を終えたあとは夜市に行き夜ごはんを食べた。夜市はとても賑やかで人々の活気に溢れており、様々な香りや音が行き交っていた。

○4 日目

まずは台北市内にある龍山寺に訪れた。龍山寺は有名な寺院で地元の人達にも愛されている場所であるそう。大きな門をくぐった後は色とりどりの装飾が沢山あり、その美しさに目を引いた。そこではお参りをし、おみくじを引いた。当然であるが全て台湾の言語で書かれているため、あまり内容を理解することは出来なかったが良い経験になった。

次に松山文創園區、台北 101 に訪れ、自由時間を過ごした。ここではゆっくりとした時間を過ごすことができ、ショッピングや好きなものに費やす時間が多くリラックスした時間だった。

○授業を実施してみて

先程紹介した立人国際小学校・幼稚園、建安国民小学校・幼稚園の 2 つで行った授業について振り返る。第 1 にどちらにも言えることは、当然の事として言語の壁がある分、コミュニケーションが取りにくいと感じた。両者共に何を伝えたいかわからずスムーズに会話が進まないこともあった。そんな時には英語やジェスチャーなどで伝えていた。最初は思うように意味が伝わらなくても伝える側が辛抱強く説明を繰り返したり、図や写真を見せて意思を伝えたりすることで両者の理解が徐々に深まることがわかった。そして相手の反応をしっかりと見てコミュニケーションを図っていくことが大切だと改めて思った。表情や声のトーンなどを観察し、「相手が理解をしているのか」「わからないことはないか」など一つひとつ意識して確認していくことが必要である。またその他にもコミュニケーションを取るうえで言葉をただ繰り返すのではなく、相手の理解度を確認し低そうであったら単語を言い換えてみたり、噛み砕いて説明したりすることが大切である。

立人国際小学校・幼稚園では積極性が磨かれた子供たちが多いのが印象的だった。例えば私の担当したグループではけん玉の糸が絡まってしまい困っていた 1 人の子に対し、2 人ほど集まって 3 人で絡まってしまった糸を解こうとしていた。その様子から、「助けを求められたから助けに行く」ではなく、「助けを求められる前に自ら動く」という姿勢が自然と身につけているのだと思った。

建安国民小学校・幼稚園では小学校の方は小学 6 年生の子たちである程度スムーズにコミュニケーションを行うことができ、グループの子どもたちは綺麗な万華鏡を完成させ大成功だった。万華鏡の模様は筒の奥にビーズを入れ光の加減や角度によって模様が映し出される作りである。その中で印象的だったことがある。1 人の子が万華鏡のビーズが入った奥の方を、折り紙を被せて塞いでしまった。説明書には筒の奥を塞ぐことは書いていなかったので模様が見えなくなってしまうのではないかと不安だった。だが実際に万華鏡を覗いてみると折り紙を被せていない時は明るく、ビーズの奥に背景が透けて見えるのに対し折り紙を被せて塞いだ方は内部が暗くなり被せた折り紙の模様とビーズが綺麗に映し出された。どちらの方法で作っても綺麗な万華鏡が出来上がった。ここで私は新しい工夫や発想を取り入れてみることの大切さを学んだ。説明書には書かれていない方法であったが、その子自身の自由な発想によって今回のことに気付くことが出来た。固定概念のような「こうあるべき」「こうしなきゃいけない」といったものにとらわれていないからこそ生まれたものであると思う。この気づきは今回の研修に参加した理由としてこうした固定概念や偏見を払拭するといった目的を達成する一歩になった。何事も手順通りにするだけでなく自分自身の考えや工夫を試しながら何事も挑戦していくことで思いがけない発見に繋がるのだと改めて感じ

ることが出来た。そして発想を大切にすることで新しいアイデアを生むことが出来るのだと今回の授業で学んだ。

○おわりに

今回の研修を通して、仲間との協調性や相手の意見を尊重する大切さを実感した。また新しい環境や日本とは違った文化に実際に触れたことで学ぶことが沢山あり、自分自身の視野を広げることができて素晴らしい経験になった。今回の経験・体験で得た学びを絶対に無駄にせず、これからの生活に活かしていきたい。そして今後も色々な挑戦を続けていきたいと改めて思う。